

平成18年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は日本付近が太平洋高気圧に覆われて全国的に晴れの日が多くなりましたが、上旬のおわりには台風第7号の影響で東日本の太平洋沿岸部では大雨が降りました。中旬の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、後半は台風第10号が九州に上陸し、九州地方や四国地方で大雨が降りました。下旬の中頃までは太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、下旬のおわりには低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、本州の日本海側で平年より多く、そのほかの地方ではほぼ平年並でした。降水量は平年に比べて概ね北日本と東日本の日本海側で少なく、東日本の太平洋側と西日本では平年並、北海道のオホーツク海側の地方と九州北部地方では平年より多くなりました。気温はほぼ全国的に平年を上回りました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より3ポイント高い67%でした。例年と比べて沖縄地方では8ポイント低く、北海道、東北、北陸地方では7から15ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃小さい2.3℃で、ほぼ全国的に例年より小さく、特に東北地方では0.4℃、九州南部地方では0.5℃それぞれ例年より小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は北海道地方では0.3℃、九州南部地方では0.4℃それぞれ例年より小さく、そのほかの地方では例年と同様で、全国平均では例年と同じ1.7℃でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報から】

8月5日、熱帯低気圧が父島の南東の海上を北西に進んでいました（図1）。この熱帯低気圧はその後発達して台風第7号となり、8月8日から9日にかけて東日本の南海上を東に進みました（図2）。

図3は8月5日の週間天気予報で使用した8月9日の予想気圧配置です。日本の南海上の広い範囲で気圧が低くなっていて、降水域も広がっていることから、どこかに熱帯低気圧や台風などがあることは推定できますが、その位置を特定することはできません。関東地方は日本の東海上から張り出した高気圧に覆われていますが、高気圧の西側にあたります。暖かく湿った空気が南から流れ込んで大気の状態が不安定になる可能性があります。一部でわか雨が降ることはあっても、広い範

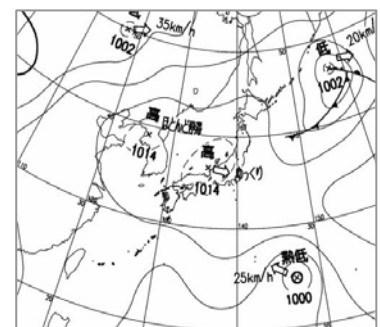
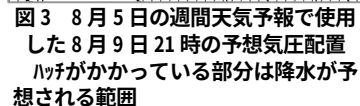
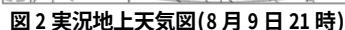


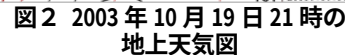
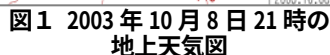
図1 実況地上天気図(8月5日9時)

予想気圧配置（図 3）と実況天気

図（図 2）を比較するとどちらも日本の東海上の高気圧が西に張り出していて、基本的な気圧配置はほぼ予想通りとなっていますが、東日本の南海上と沖縄の西海上にある台風については予想が大きく違ってきます。数日～1 週間先の台風の位置、強さ、大きさを正確に予想することは難しいため、週間天気予報では台風の影響を的確に反映できない場合があります。



例年 9 月には、しばしば日本付近に停滞する前線も、10 月になると次第に日本の南海上まで南下して、日本付近は移動性高気圧に覆われて晴れの日が続くようになります。ところが、年によっては、10 月になっても前線が停滞して、ぐずついた天気が続くことがあります。



10月にはさわやかな秋晴れの日が続くことも多いので、屋外でのレジャーや行事に適した月ですが、年によっては悪天が続くこともあります。屋外での活動を予定されている場合には週間天気予報を有効に活用して下さい。

[illegible]